

2026年4月から分別を始めた地域の容器包装プラスチックの資源化 **～容器包装プラスチックはどうなるの？～**

ご家庭や集積所から収集した容器包装プラスチック約4,000トン、以下の工程を経て大切な資源へと生まれ変わります。

①町田市バイオエネルギーセンターで積替え

収集車から降ろした容器包装プラスチックを、効率よく運搬するために専用コンテナに積替えて、中間処理施設に運搬

②民間の中間処理施設で中間処理

川崎市の民間処理施設に運ばれた容器包装プラスチックは、機械選別後にリサイクルできない不適物を手作業で取り除く

その後、1辺が約1mのサイコロ状の形に圧縮・梱包 ※このプラスチックの塊りを「ベール」という

③再資源化事業者による資源化

ベールにした容器包装プラスチックを、再資源化を行う事業者の施設に運搬し、以下の原料などに生まれ変わる！

- ・コークス（製鉄用固形燃料）
- ・化学品原料
- ・ドライアイス
- ・液化炭酸ガス
- ・アンモニア

市民のみなさまに分別していただいた容器包装プラスチックは、さまざまな形で社会に役立つ資源として循環しています。

引き続き容器包装プラスチックの分別にご協力をお願いいたします。

容器包装プラスチックの資源化の流れ

市 民

戸 別



集 積 所



収 集



バイエネ君(ストックヤード)



年間約4000トンの容器
包装プラスチックを集積



収集してきた容器包装
プラスチックを荷降ろし

中間処理施設へ

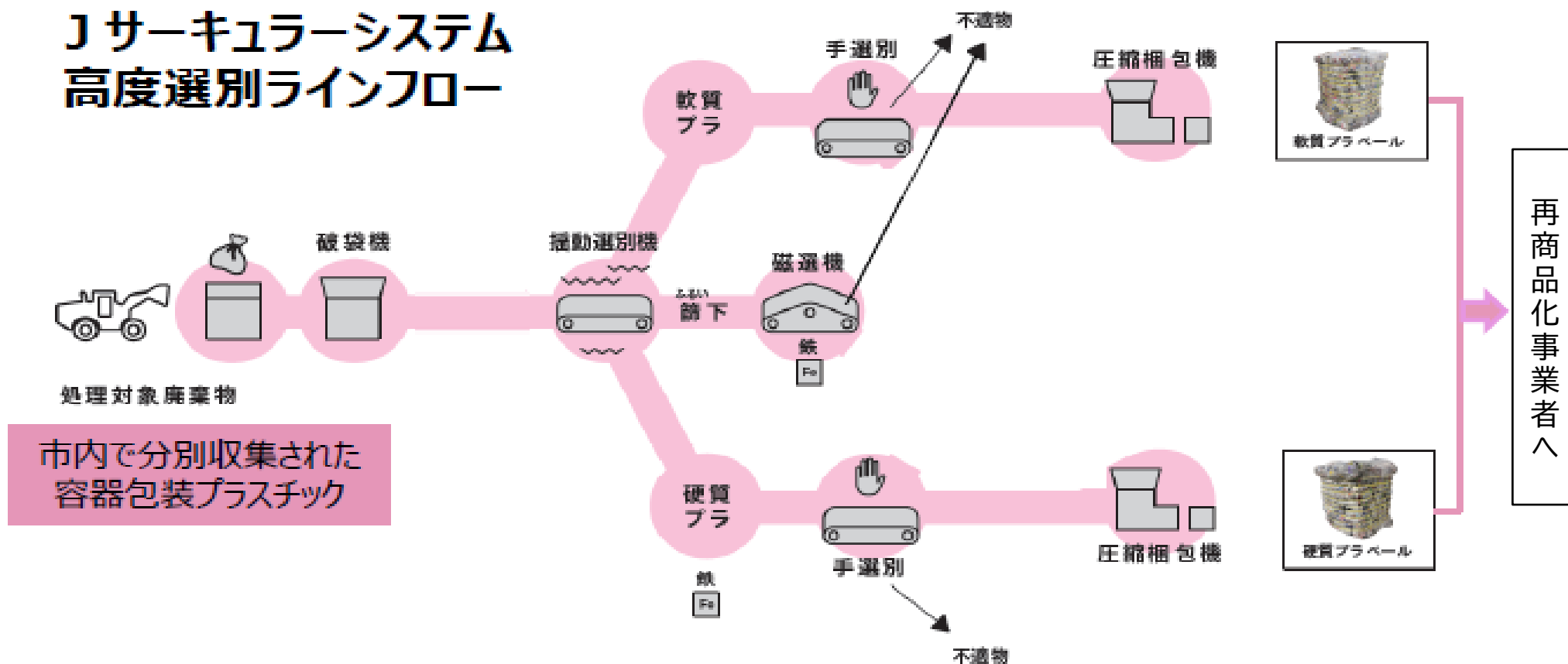


専用コンテナに入れた容器包装プラス
チックを大型車で中間処理施設へ運搬

民間中間処理施設

川崎市の株式会社Jサーキュラーシステムで、年間約4,000トンの容器包装プラスチックの中間処理を行います。

Jサーキュラーシステム 高度選別ラインフロー



- ①指定収集袋を機械で破り、選別機で軟らかいプラスチックと硬いプラスチックに選別
- ②手選別で資源化できない不適物を取り除く
- ③圧縮梱包機でプラスチックを1辺が約1mのサイコロ状の形に圧縮・梱包(ボール化)

再 商 品 化 事 業 者

公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会による入札の結果、2026年度の再商品化事業は、株式会社Jサーキュラーシステム(中間処理事業者と同一)と株式会社レゾナックが行います。

(株)Jサーキュラーシステム

- ①製鉄の高炉で使用するコークス
- ②化学品原料
ベンゼン、トルエン、キシレン、タール等

(株)レゾナック

- ①ドライアイス
- ②液化炭酸ガス
- ③アンモニア

※容器包装プラスチックの分別説明会等では、物流用パレット等のプラスチック製品に再商品化される旨の説明を行いましたが、入札の結果、上記の商品に再商品化します。